◎ルメアとドスケベ
変態セックス！
実用度満点！
80枚のイラストストーリー
もちろんテキスト無し
バージョンも収録！
前作の追加差分含む
合計160枚のCG集
○ルメアとドスケベ変態
エロぶるっ！

2月ー4日の夜
○ルメアから部屋に来るように呼び出された。
「○ルメア、入るぞ。」
「団長ちゃんいらっしゃ～い♪」
部屋に入ると裸エプロンの○ルメアが出迎えてきた。
しかも胸の所がパックリとアナが開いていて、
○ルメアの豊満な胸が丸見えだ。

「今日は2月14日だから、
団長ちゃんに手作りチョコのプレゼント♪
ハイ、どうぞ♪」
○ルメアは後ろに隠していた
手作りチョコを俺に渡した。
「ありがとう。
○ルメアの手作りチョコすごく嬉しいよ。」
ニコ♥
プルン♥

「団長ちゃん、実は今すごく食べてほしいチョコがあるの♪」

○ルメアは目をキラキラさせながら言った。なぜか下半身をモジモジさせている。

ニコ♥

モジ♥ モジ♥

あん♥

「お姉ちゃん特性生チョコを食べて♪」

○ルメアはデカ尻を俺の方に向けた。

「あっ・・・

生チョコちょっと入れすぎちゃった♪」

○ルメアの尻穴からチョコが少し溢れてきた。

どうやら○ルメアは腸内に

たっぷりと生チョコを仕込んでいるようだw

「ごは○ルメアの生チョコをいただこうか。」

ピュッ♥

モジ♥ モジ♥

「団長ちゃん♪どうぞ召し上がれ♪」

○ルメアはデカい桃尻を俺の方に向け、手でアナルを広げた。

「○ルメアの桃尻はいつ見ても エロいなあ。」

「団長ちゃん♪机の上にあるクッキーをつけて食べてね♪
名づけてお姉ちゃんのチョコフォンデュ！」

○ルメアは自信たっぷりな様子だ。

「これを○ルメアのアナルに挿せばいいのか。」

俺はスティック型のクッキーを手に取った。

「それをお姉ちゃんのお尻の穴に挿して、
生チョコをたっぷり付けて食べて♪」

○ルメアのアナルから生チョコが溢れ出している。

俺はクッキーを数本〇ルメアのアナルに挿し、
生チョコをたっぷり付けた。

「あん♪お尻の穴で感じちゃう～♪」

〇ルメアはお尻の穴にクッキーを挿されて感じている。

「これだけ生チョコを付ければ充分かな。」

俺は生チョコクッキーを一本食べた。

「モグモグ・・・美味い！
○ルメアの生チョコクッキーすごく美味しいよ！」

「ほんと！
団長ちゃんに喜んでもらえて、お姉ちゃんも嬉しい♪」

結局俺は一○本ほど
○ルメアの生チョコクッキーを食べた。

「団長ちゃん、最後はそこの母乳入り
ミルクが入った浣腸器で、
お姉ちゃんのお尻の穴にちゅ～っこして♪」

机の上にミルクが入った
特大浣腸器が置いてあったので取った。

「よろし、いくぞ。」

俺は○ルメアのアナルに
浣腸器を突き刺しミルクを注入した。

「あん♪冷たいミルクがお腹の中に入ってくる♪
これでお姉ちゃんの
生チョコシェイクの出来上がり♪
このストローで飲んでね♪」

俺は○ルメアにストローを手渡された。

あん♥
プリン♥
ハァ♥
ハァ♥
ブスッ♥
ゲイッ♥
俺はストローを○ルメアのアナルに挿した。
「あん♪ストローがお尻の穴の奥深くまで入ってくる♪」
「○ルメアの生チョコシェイク飲ませてもらうよ。」

「ちゅう～♪美味い！
この味癖になりそうなくらい美味いよ♪」
俺は夢中で生チョコシェイクを飲んだ。
「ハァハァ♪アヘ♪団長ちゃんが
私の生チョコシェイク夢中で吸ってこ飲んでる♪
団長ちゃんに喜んでもらえて
お姉ちゃん嬉しい♪」
アヘ♥
プリン♥
ハァ♥
ハァ♥
ちゅう～♥
ゲイ♥
ゴク♥ゴク♥

あん♥
プリン♥
ハァ♥
ハァ♥
ヒク♥
ヒク♥
レロ♥
レロ♥
ゲイッ♥
ストローを抜くとアナルから
生チョコシェイクが溢れてきた。
「おっと生チョコシェイクが！
勿体無いレロレロ♪」
「ハァハァ♪あん♪団長ちゃん、
そんなに舌でお尻の穴刺激されたら・・・
でちゃう・・・」
「〇ルメア、アナルがヒクヒクしてるぞw
残った生チョコシェイクが出そうなんだな？
それなら直接俺の口注いでくれ。」

「ハァハァ♪団長ちゃん、
少し待ってね♪
んん・・・あっおならが！」
「〇ルメアの可愛いおならの音が聞こえるぞw
クンカクンカ♪ちょっと臭うなw」
「団長ちゃん♪
恥ずかしいから臭い嗅がないでぇ！」
んん♥
プリン♥
ハァ♥
ハァ♥
ヒク♥
ヒク♥
プウ～♥
ゲイ…♥
あ～ん♥

「んん！ごりゅうこうこう♪」
○ルメアは生チョコシェイクを俺の口めがけて噴射した。
「ゴクゴク♪○ルメアの
生チョコシェイクを直飲みできるなんて幸せだよ。」
俺は○ルメアの生チョコシェイクを全部飲み干した。
「ハァハァ♪アヒャ♪団長ちゃんに
生チョコシェイク全部飲まれちゃったぁ♪」

生チョコを噴射し終わった直後、
○ルメアのアナルが大きく広がっている。
「あん♪おならが・・・」
○ルメアの広がったアナルから大きなおならが出た。
「クンカクンカ♪さっきより
臭くなってるぞw
ミルク浣腸でお腹が冷えたのかなw」
「あん♪団長ちゃん臭い嗅がないでぇ！
ハァハァ♪でちゃう・・・」

「おお！うんちが出てきはじめたぞ！
なんて太さだw」
「ハァハァ♪んん・・・
団長ちゃんの前でうんちするなんて・・・
恥ずかしいのに、
お姉ちゃん興奮しちゃう♪」
んん♥
ハァ♥
ハァ♥
プリン♥
ムリ♥
ムリ♥
ゲイッ♥

「んん・・・ふん♪うんちごりゅうう！」
「やっぱり○ルメアの脱糞姿は最高にエロいよ！今までで一番太いんじゃないかw」
「ハァハァ♪アヒャ♪お姉ちゃんの恥ずかしい極太うんち、団長ちゃんに見られてるぅ♪」
アヘ♥
ハァ♥ハァ♥
プリン♥
ムリ♥
ムリ♥
ブリリリリ♥
ゲイッ♥

「もう我慢できない！」

○ルメアの脱糞を見て興奮した俺は、
彼女をベッドに押し倒した。
○ルメアはデカい桃尻を突き出す格好でベッドに倒れこんだ。

「あん♪団長ちゃん。ちょっと目がコワいよ。」

「ハァ・・・ハァ。○ルメアの桃尻エロいよ！」
俺は○ルメアの桃尻を両手でガシっと鷲掴みにした。
「あん♪団長ちゃん。そんなに強く捕まれると少し痛い。」

俺は○ルメアのアナルを舐め回した。
「あん♪団長ちゃん。さっき出したばっかりで
汚いから・・・お尻の穴舐めちゃダメェー！」
「ペロペロ♪○ルメアのアナル、さっきまで入れてた
チョココレートの甘さと
うんちの苦味が合わさってすごく美味しいよ。」
俺は○ルメアが静止するのも気にせず、
夢中でアナルを舐め続けた。

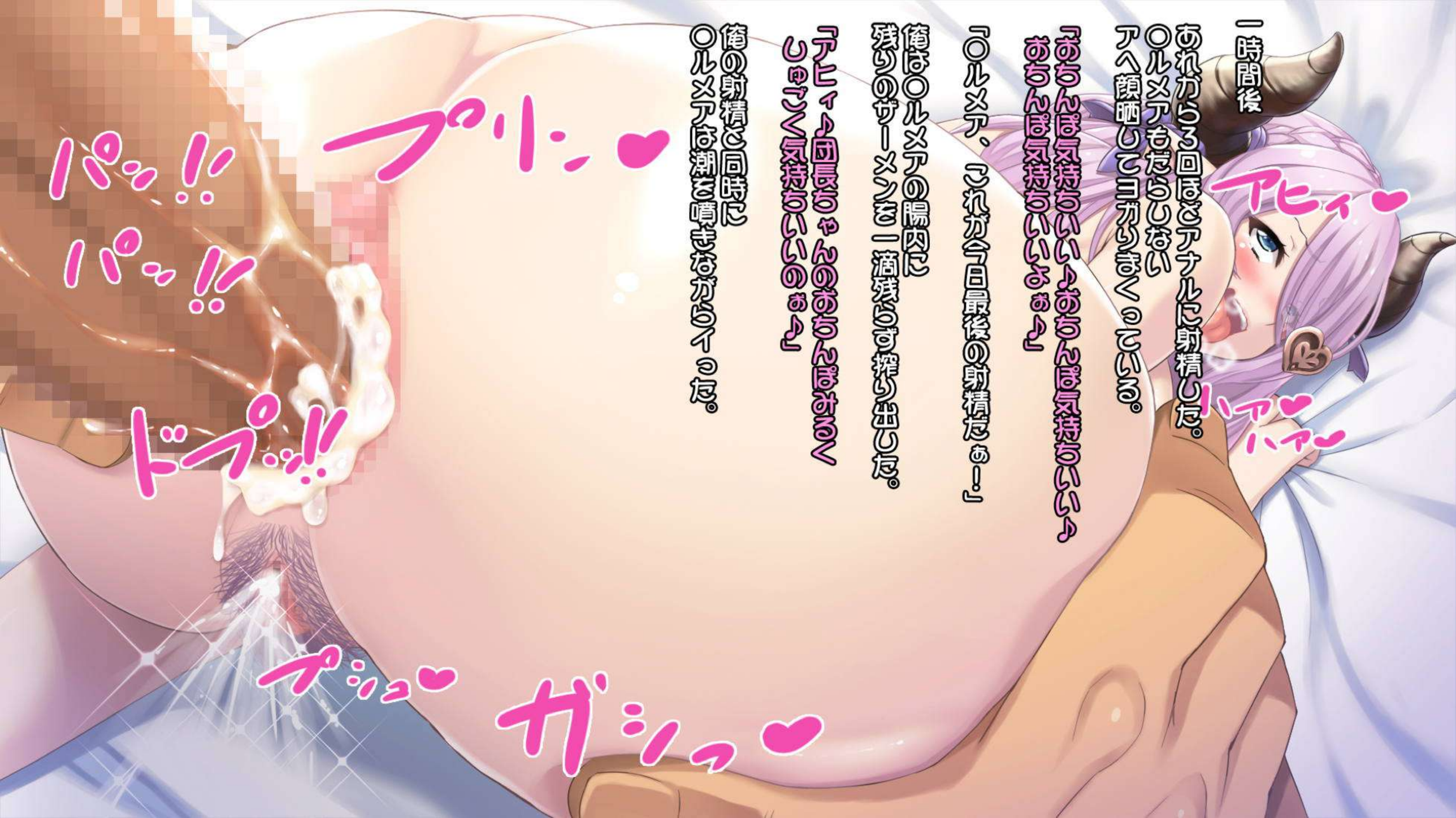
「団長ちゃん・・・もう舐めちゃ・・・ああん♪」
（団長ちゃんに汚いお尻の穴舐められてるのに気持ちいいよぉ♪）
「ペロペロ♪〇ルメアのアナルから汁が溢れてきたぞぉ
ふふふ、感じてるな。」
プリン♥
ペロ♥
ペロ♥
トロォ～♥
ガシッ♥
あぁん♥

「よし、これくらいこいかな。
次は・・・」
「だ、ダメっ！出ちゃう！」
○ルメアは俺の顔に大きなオナラを浴びせた。
「クンカクンカ♪○ルメア、
さっきよりおならがクサいぞw」
「ああん、臭い嗅がないでぇ！」
クンカ♥
クンカ♥
プリン♥
ブゥ～♥
トロォ～♥
ガシッ♥
ああん♥

「こんなクサいおならをするアナルにはちゃんと栓をしとかないとなぁ」
俺は○ルメアのアナルにチンポを挿入した。
「あん♪団長ちゃんのおっきなチンポがお尻の穴に入ってきてるぅ。」
「○ルメアのアナルが俺のチンポを咥えて離さないよ！気持ちよすぎる！」
「あっああん♪ハァハァ♪団長ちゃんのおちんぽ気持ちいいのぉ♪」
俺は○ルメアのアナルを突きまくった。
○ルメアも感じてヨガっている。
あん♥
ハァ♥ハァ♥
ブリン♥
パン!!
パン!!
ズブッ!!
ガシッ♥

「○ルメアのアナル気持ちよすぎて・・・
もう限界・・○ルメア出すぞ！」
俺は○ルメアのアナルにザーメンをぶちまけた。
「ああん♪お腹の中に
団長ちゃんのあったかいおちんぽみるくが入ってきてるぅ♪」
「一発だけじゃ物足りない！」
俺はちんぽを抜かずに再び突き始めた

一時間後
あれから3回ほどアナルに射精した。
○ルメアもだらしない
アへ顔晒してヨガりまくっている。
「おちんぽ気持ちいい♪おちんぽ気持ちいい♪
おちんぽ気持ちいいよぉ♪」
「○ルメア、これが今日最後の射精だぁ！」
俺は○ルメアの腸内に
残りのザーメンを一滴残らず搾り出した。
「アヒィ♪団長ちゃんのおちんぽみるく
しゅごく気持ちいいのぉ♪」
俺の射精と同時に
○ルメアは潮を噴きながらイった。



「ハァ・・・ハァ♪
団長ちゃんのおちんぽの形憶えちゃって、
アナル広がったままだよぉ♪
あん♪団長ちゃんのおちんぽみるくが溢れちゃう♪」
大量に注いだ俺のザーメンが
○ルメアのアナルから溢れ出してる。
あん♥
ハァ♥ハァ♥
プリン♥
パックリ♥
ドロォ～♥
ガシッ♥

「ハァ・・・ハァ♪
ダメっ出ちゃう♪
んん・・・んぎぃ♪」
アナルがヒクヒク動き出した直後、
○ルメアは顔を真っ赤にしてキバり始めた。
「おお！さっきあれだけ出したのに、
また極太うんちが出てきたよぉ」
んぎ・・♥
ハァ♥
ハァ♥
プリン♥
ムリ♥
ムリ♥
ヒク♥
ヒク♥
ガシッ♥

「ハァハァ♪んん・・・
アヒィ♪またうんち出ちゃうぅ♪」
「おお！今日一度目の○ルメアのエロ脱糞だw
さっき出したばかりなのに、
まだこんな極太うんちをヒリ出すなんて・・・
○ルメアの腸内はうんち製造機だなw」
○ルメアは極太うんちをヒリ出し続けている。
ブリッ♥
ヒク♥
ヒク♥
ブリブリブリ♥
ブリリリリリ♥
ガシッ♥
アヘ♥
ハァ♥
ハァ♥

「アヘ♪団長ちゃんに恥ずかしい脱糞姿見られて感じちゃうぅ！
ハァハァ♪うんち止まらにゃいいいい♪」

○ルメアはついに潮を吹きながら脱糞しだしたw

「あ～あw脱糞しながら潮噴き出しちゃったよw
○ルメア、脱糞しながら感じてるのか？」

「はい♪団長ちゃんに見られながら
脱糞するの気持ちよすぎて・・・
お姉ちゃんイっちゃうのぉ♪」

この日、俺に脱糞を見ながらイくことを覚えた○ルメアは、
シーツに大量のうんちをぶちまけた。

3月14日の夜
俺はルメアの部屋に行った。
「ルメア、入るぞ。」
「団長ちゃんいらっしゃ～い♪」
いつものように裸エプロンのルメアが出迎えてきた。
「はい。バレンタインのお返し。」
俺はルメアにクッキーを手渡した。
「団長ちゃん。ありがとう♪」

「もう一つプレゼントがあるんだ。
今日一日○ルメアの言う事を
なんでも聞いてあげるよ。」
「えっなんでもいいの？」
○ルメアは嬉しそうに目を輝かせている。
ニコ♥
プルン♥

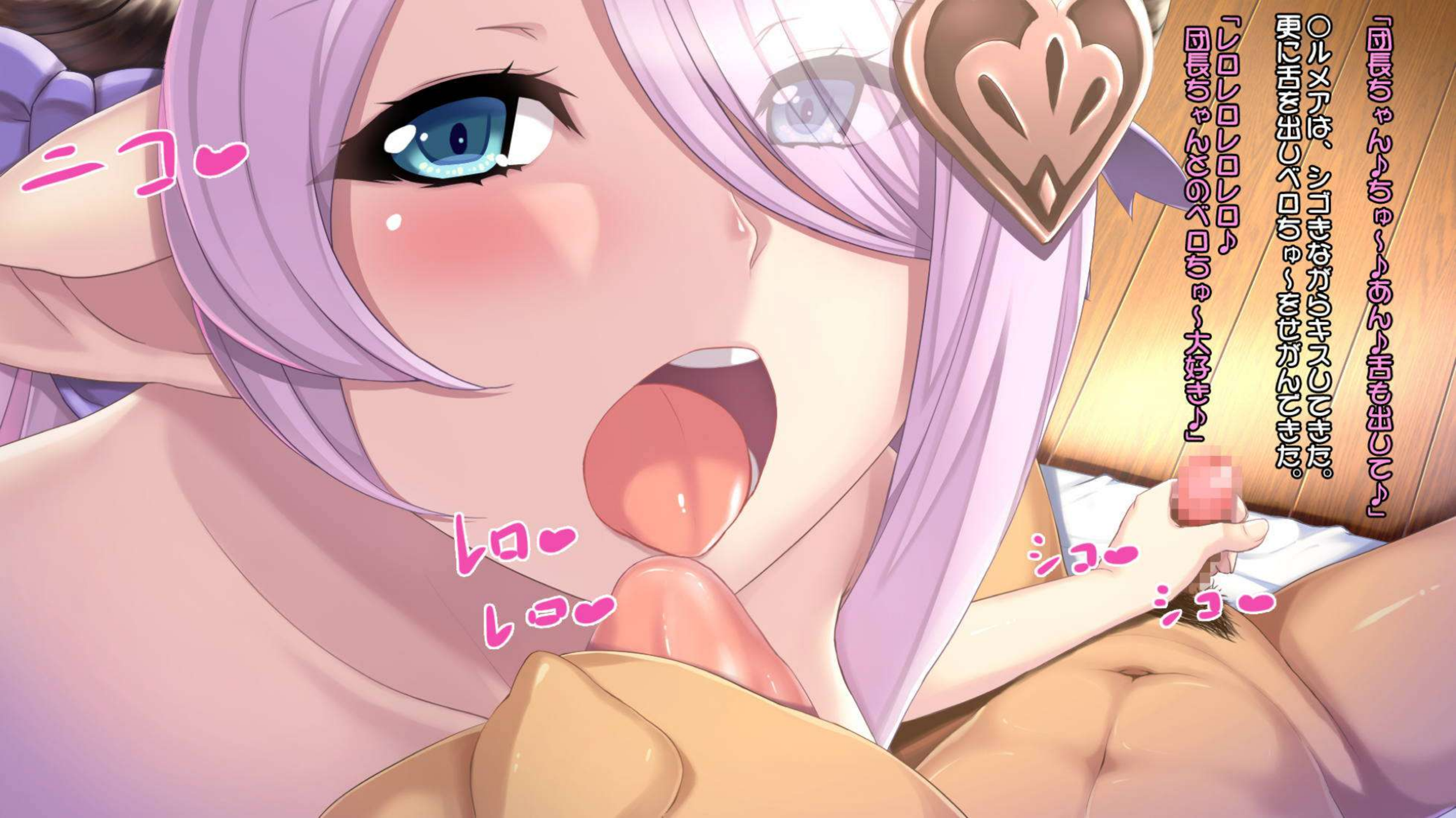
「ああ、俺ができる事ならなんでもいいぞ！」

「どうしようかなあ・・・あっ
ちょっとおならでちゃった♪」

○ルメアはうれしさの余り、
お尻を振りながらおならをした。

「団長ちゃん♪先ずは服を脱いでベッドに座って♪」

俺は裸になりベッドに腰掛けた。
○ルメアも裸になり、俺の横に座った。
「団長ちゃん♪お姉ちゃんがシゴいてあげるから
じっとしてこね♪団長ちゃんは何分もつかな♪」
○ルメアは少しイジワルな笑みを浮かべ、
俺のチンポを手でシゴき始めた。
ニコ♥
シコ♥
シコ♥


「団長ちゃん♪ちゅ～♪あん♪舌も出して♪」
○ルメアは、シゴきながらキスしてきた。
更に舌を出しベロちゅ～をせがんできた。
「レロレロレロレロ♪
団長ちゃんとのベロちゅ～大好き♪」
ニコ♥
レロ♥
レロ♥
シコ♥
シコ♥

あん♥
「○ルメアにペロちゅ～されながら
シゴいてもらえるなんて・・・」
「ふふふ♪団長ちゃんのオチンチン
すごく大きくなった♪
でも、まだイっちゃダメだよ♪」
○ルメアは、激しくシゴき始めた。
シコ♥
シコ♥

あん♥
レロ♥
レロ♥
シコ♥
シコ♥
シコ♥
シコ♥
「レロレロ♪んちゅ～♪
もっと団長ちゃんとペロちゅ～したい♪」
○ルメアは、再びシゴきながら
ペロちゅ～を始めた。

「くっ○ルメア、俺もう限界だよ。」

「レロレロレロ♪ハァハァ♪
オチンチンからガマン汁が溢れてきたぁ♪
団長ちゃんのオチンチン
ビクビク脈うってる♪もう少しだけガマンして♪」

○ルメアは、ペロちゅ～しながら
更に激しく扱きだした。

「げ、限界だ！」

俺は大量に射精した。

「レロレロレロ♪ハァハァ♪
オチンポミルクいっぱい出てるぅ♪
お姉ちゃんが全部絞りだしてあげる♪」

○ルメアは、俺のチンポを少し強く握り、
ザーメンを絞り出し始めた。

床に俺のザーメンが
大量にぶちまけられている。
お互いの舌の間で
二人の唾液が糸を引いている。
「ハァハァ♪
団長ちゃん♪いっぱいオチンポミルク出したね♪
お姉ちゃんの股間もいっぱい濡れちゃったの♪
団長ちゃん♪次は横になってね♪」

俺は○ルメアの言うとおりに、
仰向けになって寝た。

「○ルメア、これでいいか！」

「次は団長ちゃんが大好きな♪
お姉ちゃんのお尻でシコシコしてあげる♪」

○ルメアは俺の腹の上に乗り、
デカ尻で俺のチンポを押しつぶした。

○ルメアはお尻を擦りつける様にして、
俺のチンポをシゴき始めた

「○ルメアのデカ尻のケツ圧とマン汁が潤滑油になって、
絶妙なシゴき加減だよ。」

「あん♪シゴく度に団長ちゃんの
オチンチンが大きくなっていく♪」

「ん？○ルメアケツモが生えてるぞ。
さてはお手入れをサボってるなw」

「あん、見ちゃダメ♪
だって最近、団長ちゃんとエッチしてないから・・・」

「団長ちゃん♪これはどう？」
○ルメアは桃尻を左右に動かし、
グリグリと俺のチンポをシゴいてきた。
「うっ気持ちよすぎて、
気を抜くとイってしまいそうだ！」
「あん♪まだイっちゃダメだよ♪」
○ルメアは少し
イジワルな笑みを浮かべている。

「団長ちゃん、お姉ちゃんもイキそうなの。」
○ルメアは桃尻を早く動かし
俺のチンポをシゴいていく。
○ルメアのオマンコから
マン汁がどんどん溢れてくる。
「○ルメア！俺そろそろ限界だ。」
「あん♪お姉ちゃんもイキそうなの。
団長ちゃん一緒にイキましょ♪」

「○ルメア！出すぞ！」

「お姉ちゃんも、イっちゃうぅ♪」

俺と○ルメアは同時にイった。

「アヒィ♪気持ちよすぎておしっこでちゃうぅん♪」

○ルメアは気持ちよさのあまりイキションした。

「アヘヘ♪おしっこ漏らしちゃったぁ♪」

「団長ちゃんのオチンチン
まだ大きいまま脈うってるw残らず出してね♪」
○ルメアは再び桃尻を動かして
俺のチンポをシゴき始めた。
「あん♪ダメっーとちゃう♪」
○ルメアは大きなおならをした。
「クンカクンカ♪
また一段とクサくて香ばしい
臭いのおならがでたぞw」
「あん♪臭い嗅がないでぇ！」

あん♥
ハァ♥
ハァ♥
プリン♥
ブゥ～♥
ヒク♥
ヒク♥
グリ♥
グリ♥
シコ♥
シコ♥

「も、もう限界！」

「団長ちゃんのオチンチン
ビュクビュク♪脈うってるぅ♪
オオン♪お姉ちゃんもイクぅぅ♪」

俺とOルメアは再び同時に絶頂を迎えた。
俺の精液とナルメアのイキションが同時に出始めた。

「ハァハァ♪気持ちよすぎて、おしっこ止まらにゃいのぉ♪」

○ルメアはアヘ顔でイキションを出し続けている

「あ～あ、俺の下半身が○ルメアのおっしこ塗れだよw」

「ごめんなさぁい♪でも、気持ちいいのぉ・・・アヒャ♪おならでちゃったぁ♪」

尻コキで射精した後、
俺は○ルメアの胸を揉みしだいていた。

「ああ、○ルメアのおっぱい、
マシュマロみたいに柔らかいよ。」

「あん♪団長ちゃんおっぱいばかり弄ってないで、
早くオマンコに入れてよぉ♪」

○ルメアのオマンコがチンポを欲しそうに、
ヒクヒクと動いている。

「さあ、○ルメアお待ちかねのチンポだ！」

「あん♪団長ちゃんのおチンポ入ってきたぁ♪」

○ルメアの膣内は愛液で濡れていて、
すんなりと俺のチンポを受け入れた。
チンポを入れただけで、
○ルメアのオマンコから愛液が溢れてきている。

俺はロルメアのオマンコを
下から激しく突き上げ始めた。

「あん♪ああん♪おチンポ気持ちいいのぉ♪」

「あん♪ああん♪
あっ気持ちよすぎて、出ちゃう！」

○ルメアは俺に突かれながらおならをしたw

「○ルメアのクサいおならが
俺のチンポに当たってるよw」

「あん♪ごめんなさぁい♪でも、団長ちゃんに
オマンコ突かれながらおならするの気持ちいい♪」

「あん♪ハァハァ♪
おなら止まらないのぉ♪」

○ルメアは突き上げる度に、おならをしこいる。

「○ルメア、そろそろ限界だ。
膣内に出すぞ！」

俺は膣内にザーメンをぶちまけた。

「ああん♪団長ちゃんの
オチンポミルク入ってきてるぅ♪」

一時間後

あれから俺は○ルメアの膣内に数回射精した。

「ハァハァ♪とりあえずこれで最後だ！」

「あん♪ハァハァ♪
おチンポ気持ちいい♪おチンポ気持ちいい♪
オチンポミルクでイクぅぅぅ♪」

○ルメアは俺の射精と同時に母乳とおしっこを出した。

「おお、○ルメアのおっぱいから母乳が！」

俺がチンポを引き抜くと、
膣内から精液がドロリと溢れてきた。
「ハァハァ♪アヘ♪
オマンコから団長ちゃんの
オチンポミルクが溢れてきてる♪
あん♪おなら出ちゃうぅ♪」
○ルメアは膣内からザーメンを
溢れさせながらおならをした。
アヘ♥
トロォ~♥
グリ♥
ハァ♥
ハァ♥
グリ♥
ヒク♥
ヒク♥
ブゥ~♥
ドロォ~♥

俺は○ルメアの乳首を弄り続けた。
オマンコはヒクヒクと軽く痙攣している。

「ハァハァ♪アヘ♪おなら止まらないよぉ♪
オマンコ軽くイキっぱなしなのに、
そんなに乳首弄られたら・・・
イっちゃうぅぅぅ♪」

○ルメアアヘ顔を晒しながら、
母乳を出しながらイキションをした。

「ホント今日はおならばっかりしているなあ。
ひょっとして便秘してるのか？」
俺は○ルメアの尻を鷲掴みにした。
「ごめんなさい♪一週間お通じきてないの。
あん♪団長ちゃん。そんなに強く掴まないで！」
○ルメア尚もおならを出し続けている。

「クンカクンカ♪なるほど一週間か。
どうりでおならがクサいわけだぁ」
「あぁん、臭い嗅いじゃいやぁ！
ダメ・・・おなら止まらないのぉ！」
○ルメアは俺の顔にクサいオナラを浴びせた。
「クンカクンカ♪○ルメアのおなら
ほとんどうんちと変わらない臭いだぞぉ」
「くずん♪恥ずかしいよぉ。」
クンカ♥
クンカ♥
プリン♥
ブゥ～♥
あぁん♥
ドクリ♥
ガシッ♥

俺は○ルメアのおならを顔面で浴びながら、
アナルを舐め始めた。
「レロレロ♪おお！もうアナルから
腸液が溢れ出したぞ。」
「あっああん♪そんなに激しく
お尻の穴舐められたら・・・」
クンカ♥
クンカ♥
レロ♥
レロ♥
プリン♥
ブウ～♥
トロォ～♥
ドロリ♥
ガシッ♥
あぁん♥

俺は○ルメアのおならを顔面で浴びながら、
アナルを舐め始めた。

「レロレロ♪○ルメアのアナルが
ヒクヒクしてきたぞw」

「あっああん♪ダメ・・・イっちゃう！
んひぃ♪団長ちゃんにお尻の穴舐められて
イっちゃうぅぅ♪」

○ルメアは潮噴くと同時にイキションをしたw

「ああ、○ルメアエロいよ。」

「○ルメアのアナルがエロ過ぎて、
俺もう我慢できないよ！」

「ハァハァ♪ダメ！今お尻の穴敏感になってるから・・・
あん♪イっちゃうぅぅ♪」

俺は○ルメアのアナルに勃起したチンポをぶち込んだ。
○ルメアは俺がチンポを入れただけで、
絶頂を向かえ潮を噴いたw

「○ルメアのアナルから、腸液がどんどん溢れてくる！」
「ハァハァ♪あっあん♪あぁん♪アヒィ♪ケツ穴しぇっくす気持ちいいのぉ！」
○ルメアは、俺がチンポで突く度にアヘ顔でヨガっている。
プリン♥
パン!!
パン!!
ドロリ♥
ガシッ♥
アヒィ♥
ハァ♥
ハァ♥

「〇ルメアのアナル、気持ちよすぎて・・・
もう限界！」
「ハァハァ♪アヒィ♪
お腹にオチンポミルクいっぱい注がれてるぅ♪」
俺が射精すると同時に〇ルメアは潮を噴いた。
「ハァハァ♪まだ出し足りない！」
俺はチンポを抜かずに、
再び〇ルメアの桃尻を突き始めた。
「アヒィ♪ハァハァ♪あっあん♪あああん♪」
アヒィ♥
ハァ♥
ハァ♥
プリン♥
ドプッ♥
ブシュ～♥
プシュ♥
ガシッ♥

「こっ○ルメアのおならでチンポが押し出される！
ハァハァ♪2発目出すぞ！」
「ハァハァ♪アヒィ♪
オチンポミルクしゅごい気持ちいいのぉ♪」
俺が射精すると同時に
○ルメアはまた潮を噴いた。
「ハァハァ♪○ルメアずっとイキっぱなしだなw」
「アヒィ♪ハァハァ♪お姉ちゃん、
団長ちゃんにオチンポミルク注がれるだけで
イっちゃう体になっちゃったぁ♪」
アヒィ♥
ハァ♥
ハァ♥
プリン♥
ドプッ♥
ブシュ～♥
プシュ♥
ガシュッ♥

「ハァハァ♪」
俺は○ルメアのアナルからチンポを抜いた。
「ハァハァ♪あっダメ！今チンポ引き抜かれたら・・・
うんちでちゃうぅぅ♪」
俺がチンポを抜くと直ぐに
○ルメアは極太うんちをヒリ出し始めた。
「ハァハァ♪一週間ぶりのうんち気持ちいいのぉ♪
アヒィ♪脱糞アクメでイっちゃうぅ♪」
○ルメアは極太うんちをヒリ出しつつ
潮を噴きながらイキションをし始めた。
「○ルメアの極太うんち脱糞アクメ
エロ過ぎるよぉ」
アヒィ♥
ハァ♥
ハァ♥
ブリン♥
ブリブリブリ♥
ブリュリュリュ♥
プシュ♥
プシャアア♥
ガシュッ♥

数時間後
あれから俺は、
○ルメアとセックスし続けた。
○ルメアの桃尻はザーメン塗れになっている。
「あん♪団長ちゃん、
お姉ちゃんもう腰に力が入らないよ♪」
○ルメアは枕をギュっと掴み、
寝バックの状態だ。
パン!!
パン!!
あん♥
ハア♥
ハア♥

「○ルメアのオマンコ気持ちよすぎて、何回入れても飽きないよ。」
「ハァハァ♪団長ちゃん激しすぎ♪」
○ルメアのオマンコが気持ちよすぎて、俺は夢中で腰を振り続けた。
パン!!
パン!!
あん♥
ハア♥
ハア♥

「パン！パン！パン！」

「ハァハァ♪膣内に出すよ！」

俺は〇ルメアの
膣内にザーメンをぶちまけた。

「ハァハァ♪団長ちゃんの
オチンポミルク入ってきてる♪」

俺はオマンコだけで、
今日何度目か判らないくらい射精している。

「ハァハァ♪次はアナルだ！」
「ハァハァ♪団長ちゃんダメっ！
今お尻が敏感になっ・・・
ああん♪オチンポ入ってきてるぅ」
俺は○ルメアの静止を無視して、
アナルにチンポを突き挿れた
ズブ…!!
あん♥
ハア♥
ハア♥

パン!パン!パン!
ハァハァ♪○ルメアのアナル最高だよ。
俺のチンポをキュウキュウ締め付けてくるよ。
「ハァハァ♪
オチンポ気持ちよすぎて・・・
あん♪団長ちゃんのオチンポミルクが・・・」
俺が腰を打ちつける度に、
○ルメアのオマンコとアナルから
ザーメンが溢れてくるw。
パン!!
パン!!
ドクォ~♥
あん♥
ハア♥
ハア♥

あれから一時間後
俺はアナルに2回射精した。
【パン！パン！パン！】
「ハァハァ♪少し休ませて・・・
あん♪あん♪ああん♪
団長ちゃんのオチンポ気持ちよすぎるのぉ♪」
○ルメアは隣の部屋に聞こえそうなくらい、
大きな声でヨガっている。
「ハァハァ♪
よし、これを出したら少し休憩だ！」
「アヒィ♪オチンポミルク入ってきたぁ」

ドプッ!!
ドロォ～♥
アヒィ♥
ハァ♥
ハァ♥

「ハァハァ♪
団長ちゃんのオチンポミクルで
お腹の中タプタプなのぉ♪」

「ハァハァ♪
少し休憩にするか。」

俺はOルメアのアナルからチンポを引き抜いた。

「アヘ♪見てぇ。お姉ちゃんのアナル、
団長ちゃんのオチンポの形に広がっちゃったぁ♪」

直腸内のザーメンが見えるくらい広がっているw

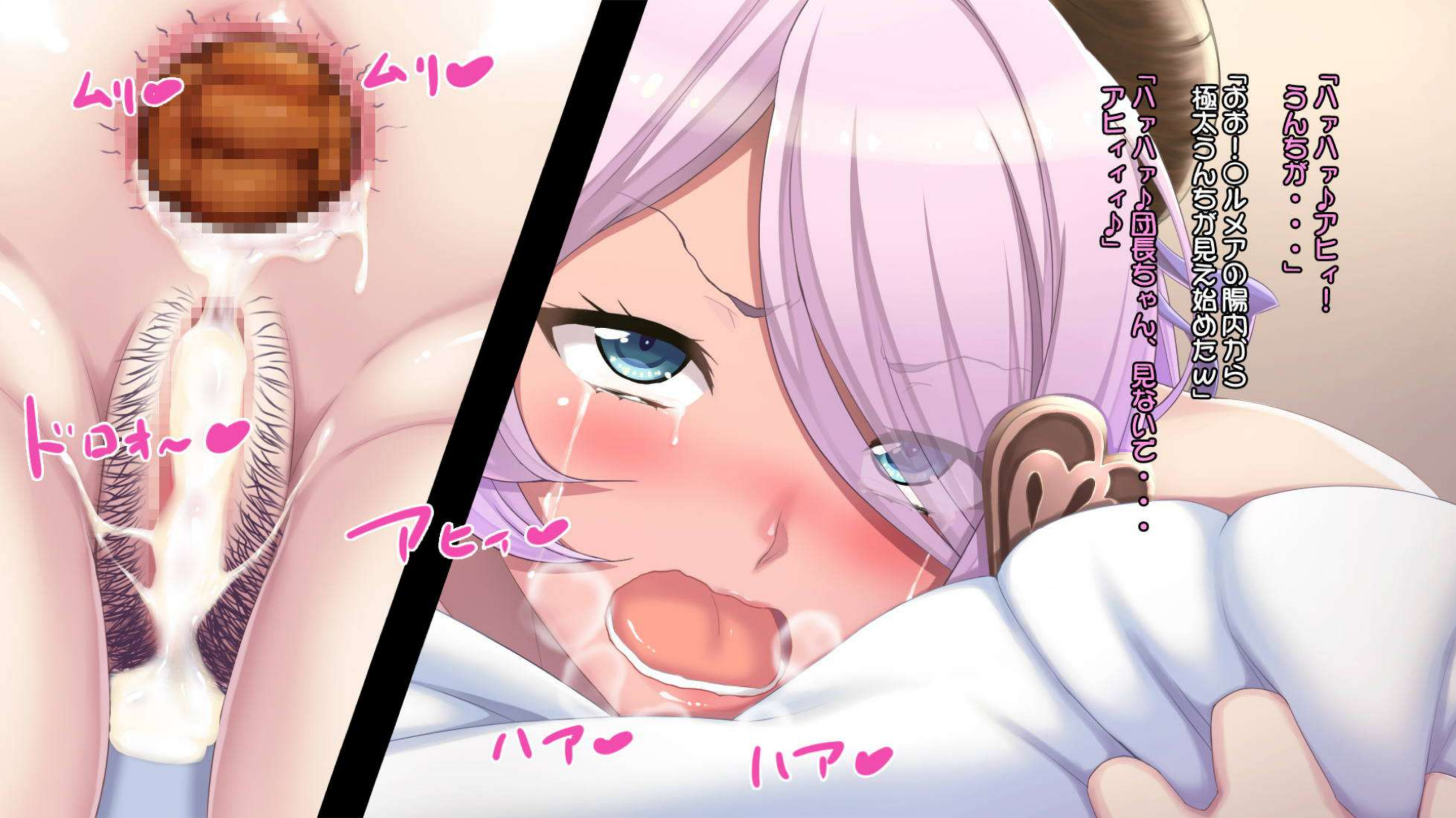
ヒフ♥ ヒフ♥

ドロォ～♥

アヘ♥

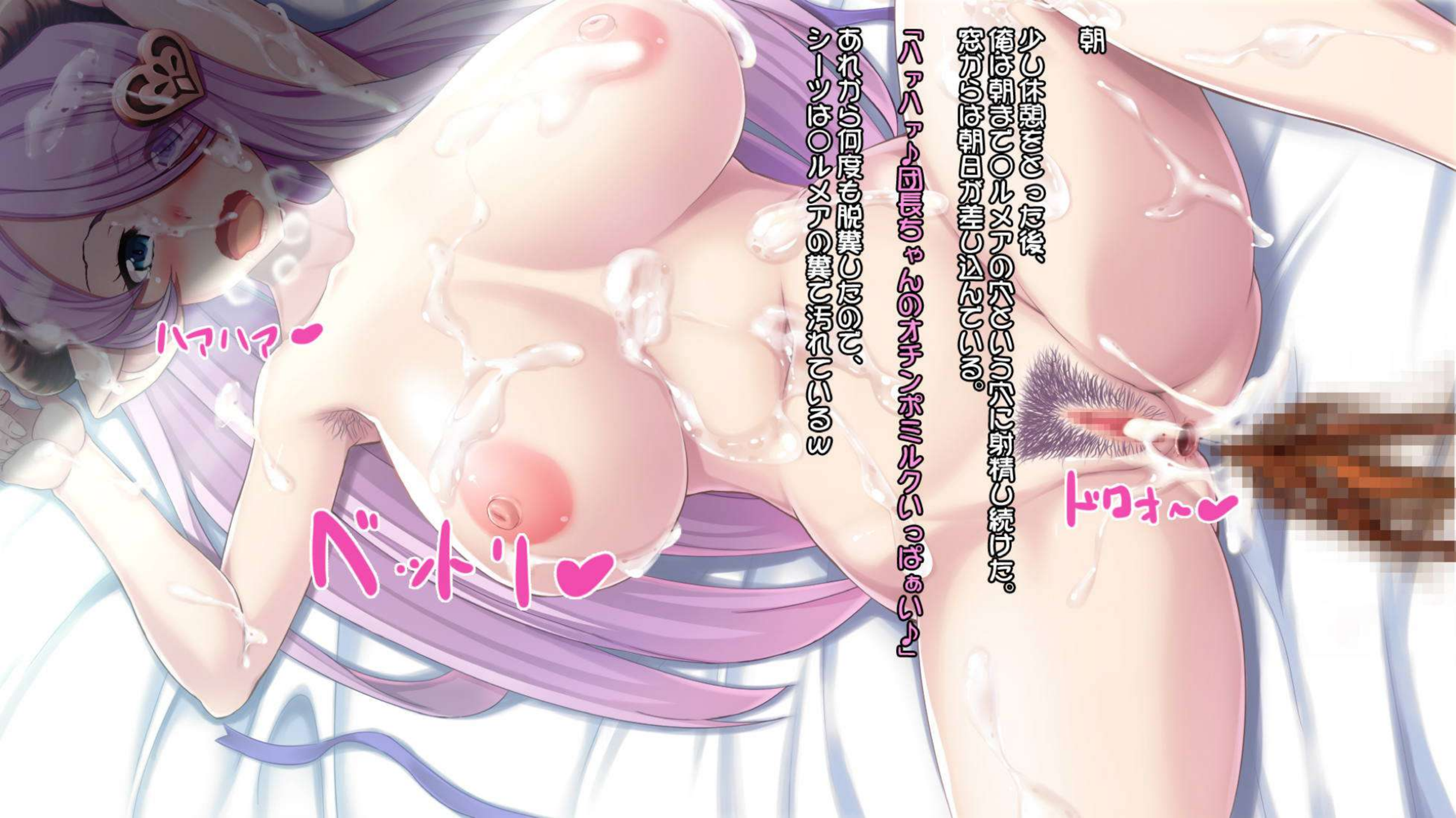
ハア♥ ハア♥

「ハァハァ♪あっダメっ！
出ちゃう！」
○ルメアのアナルから、
腸内に溜まっている
俺のザーメンが噴射され始めた。
「アヒィィ♪団長ちゃんの
オチンポミルクが全部出ちゃうぅ♪」
ブリュリュ♥
ドロォ～♥
アヒィ♥
ハア♥
ハア♥


「ハァハァ♪アヒィ！
うんちが・・・」
「おお！○ルメアの腸内から
極太うんちが見え始めたw」
「ハァハァ♪団長ちゃん、見ないで・・・
アヒィィィ♪」
ムリ♥
ムリ♥
ドロォ～♥
アヒィ♥
ハァ♥
ハァ♥

「ハァハァ♪ンヒィ！
うんち出ちゃうぅぅ♪」
「おお！
見事な極太うんちだよ。〇ルメアw」
「ハァハァ♪団長ちゃんに見られながら、
恥ずかしい極太うんちヒリ出すの気持ちいいよぉ♪」
ブリブリブリ♥
ンヒィ♥
ハア♥
ハア♥

ブリュリュリュ♥
アヘ♥
ハア♥
ハア♥
「ハァハァ♪アヘ！
うんち止まらないいい♪」
結局、○ルメアは一分近く
極太うんちをヒリ出し続けたw


朝
少し休憩をとった後、
俺は朝まで〇ルメアの穴という穴に射精し続けた。
窓からは朝日が差し込んでいる。
「ハァハァ♪団長ちゃんのオチンポミルクいっぱぁい♪」
あれから何度も脱糞したので、
シーツは〇ルメアの糞で汚れているw
ハァハァ♥
ベットリ♥
ドクドク♥

「○ルメア、たくさんうんち出したな。
シーツが○ルメアの糞で茶色く汚れちゃったよw

「ハァハァ♪後で綺麗に選択しないと・・・」

○ルメアがしゃべってる途中
アナルがヒクヒクと痙攣し、おならをし始めた。

「アヒィ♪またうんち出そうなのぉ♪」

「ハァハァ♪アヒィ♪うんち出ちゃったぁ♪」

○ルメアの広がりきったアナルから
極太うんちが出始めた。

「俺と節句し始めてから何度目の脱糞だよw
ほんと○ルメアはうんち製造機だなw」

「ひゃい♪わらしはブリブリうんちヒリ出す、
うんち製造機です♪」

「ハァハァ♪アヘ♪団長ちゃんに見られながら
うんちヒリ出すの気持ちいいのぉ♪」

「あ～あぁうんちがとぐろを巻き始めちゃったよぉw
ほんと〇ルメアの脱糞はエロいなあ。」

「アヒィィィ♪脱糞アクメでイキション出ちゃうぅぅ♪」

結局3分近くうんちをヒリ出し続けた。
その後、〇ルメアの手料理で朝食を一緒に食べた。